

授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプラン I	指導担当者名	高田 明日香
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ○ 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	グループワークを通し、コミュニケーション力やプレゼン力を高める		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	配布プリント(プレゼンテーション技法から抜粋)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	クラス内でオリエンテーション	今後の目標等の設定、クラス運営について
	2	クラスレクリエーション	クラス内でレクリエーションをし親睦を図る
	3	新入生ビジネスマナーに向けて	事前準備
	4	コミュニケーションの基本を身につける	話し方、挨拶
	5	コミュニケーションの基本を身につける	話し方、挨拶
	6	正しい日本語を身につける	現在の日本語を考える、正しい言葉遣い
	7	正しい日本語を身につける	現在の日本語を考える、正しい言葉遣い
	8	まとめ	自分の話し方や現在の日本語について考えまとめる
	9	発表	まとめた内容を発表し共有
	10	話すときの心構えを理解する	聞き手を意識した心構え・話題の広げ方
	11	話すときの心構えを理解する	聞き手を意識した心構え・話題の広げ方
	12	効果的な話し方を身につける	効果的な話し方
	13	効果的な話し方を身につける	効果的な話し方
	14	まとめ	聞き手を意識した心構え・話題の広げ方について考えまとめる
	15	発表	まとめた内容を発表し共有
	16	まとめ	まとめ/期末試験
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション論 I		指導担当者名	高田 明日香	
実務経験				実務経験:	
開講時期	後期		対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 1年	
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ○	実験: ー	
単位数	2 単位	総時間	30 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	グループワークを通して、クラス内での意見交換を実施。就職に向けコミュニケーション能力を高める。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	配布プリント				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	コミュニケーション①	グループワーク(情報交換)		
	18	コミュニケーション①	グループワーク(情報交換)		
	19	自己分析	自己分析		
	20	自己分析	自己紹介プレゼン作成		
	21	自己分析	自己紹介プレゼン作成		
	22	自己分析	発表		
	23	他己分析	他己分析		
	24	他己理解	他己理解プレゼン作成		
	25	他己理解	他己理解ぶ		
	26	他己紹介	発表		
	27	共有	改めて行った自己紹介・他己紹介を通し、お互いの理解を深める。情報の共有。		
	28	コミュニケーション②	グループワーク(問題解決)		
	29	コミュニケーション③	グループワーク(問題解決)		
	30	コミュニケーション④	グループワーク(問題解決)		
	31	振り返り	自己紹介・他己紹介を通し、お互いを理解する前と後でのコミュニケーションの違いを振り返る。		
32	まとめ	まとめ/期末試験			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	医療保険事務1	指導担当者名	篠塚 琴恵
実務経験	首都圏の医療機関にて臨床検査技師として業務に11年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ○ 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	医療事務技能認定試験(9月受験予定)を目標に学習。 ※その他奇数月に検定実施。 検定試験合格に向けて、医療保険制度・診療報酬算定の仕組みを理解し、幅広い基礎力を身に着ける。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	医科テキスト2～4(算定とレセプト上・下、トレーニングブック)、資料ブック、理解度チェック		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	医療従事者としての基本と心構え 医療事務の仕事①～④	医療事務の基礎知識
	2	初・再診	初・再診料の算定方法を学ぶ
	3	投薬	投薬の仕組み・算定方法を学ぶ
	4	注射	注射の算定方法を学ぶ
	5	医学管理 在宅医療	医学管理・在宅の算定方法を学ぶ
	6	処置 リハビリテーション	処置・リハビリテーションの算定方法を学ぶ
	7	手術 麻酔	手術・輸血・麻酔の算定方法を学ぶ
	8	検査	検査の種類、算定方法を学ぶ
	9	画像診断 放射線・精神科専門療法	画像診断・放射線・精神科専門療法の算定方法を学ぶ
	10	医療事務技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	11	医療事務技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	12	医療事務技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	13	医療事務技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	14	医療事務技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	15	医療事務技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	16	まとめ	まとめ／期末試験
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	レセプト実習1	指導担当者名	篠塚 琴恵
実務経験	首都圏の医療機関にて臨床検査技師として業務に11年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 1年
授業方法	講義: ○	演習: ー	実習: ◎ 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	医療事務技能認定試験(9月受験予定)を目標に学習。 ※その他奇数月に検定実施。 検定試験合格に向けて、医療保険制度・診療報酬算定の仕組みを理解し、幅広い基礎力を身に着ける。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	医科テキスト2～4(算定とレセプト上・下、トレーニングブック)、資料ブック、問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	医療従事者としての基本と心構え 医療事務の仕事①～④	医療事務の基礎知識
	2	初・再診	初・再診料の算定方法を学ぶ
	3	投薬	投薬の仕組み・算定方法を学ぶ
	4	注射	注射の算定方法を学ぶ
	5	医学管理 在宅医療	医学管理・在宅の算定方法を学ぶ
	6	処置 リハビリテーション	処置・リハビリテーションの算定方法を学ぶ
	7	手術 麻酔	手術・輸血・麻酔の算定方法を学ぶ
	8	検査	検査の種類、算定方法を学ぶ
	9	画像診断 放射線・精神科専門療法	画像診断・放射線・精神科専門療法の算定方法を学ぶ
	10	医療事務技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	11	医療事務技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	12	医療事務技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	13	医療事務技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	14	医療事務技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	15	医療事務技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	16	まとめ	まとめ/期末試験
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	医療関連法規1	指導担当者名	篠塚 琴恵
実務経験	首都圏の医療機関にて臨床検査技師として業務に11年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ー 実験: ー
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	医療事務技能認定試験(9月受験予定)を目標に学習。 ※その他奇数月に検定実施。 検定試験合格に向けて、医療保険の仕組みや種類、医療法などについて学ぶ。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	テキスト1 医療保障制度、問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	医療保険のしくみ	医療保障制度
	2	医療保険のしくみ	医療保険の種類・被保険者証の見方
	3	保険給付のしくみ	保険給付の範囲・種類、給付割合と患者負担割合、高額療養費
	4	保険給付のしくみ	保険外併用療養費
	5	その他医療保障制度	公費負担医療制度の概要、生活保護法、難病法
	6	その他医療保障制度	感染症法、労災保険、自賠責保険
	7	その他医療保障制度	介護保険
	8	演習	過去問題
	9	演習	過去問題
	10	演習	過去問題
	11	演習	過去問題
	12	演習	過去問題
	13	演習	過去問題
	14	演習	過去問題
	15	演習	過去問題
	16	まとめ	まとめ/期末試験
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	医療保険事務2	指導担当者名	篠塚 琴恵
実務経験	首都圏の医療機関にて臨床検査技師として業務に11年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ○ 実験: ー
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	医療事務技能認定試験(11月受験予定)を目標に学習。 ※その他奇数月に検定実施。 検定試験合格に向けて、医療保険制度・診療報酬算定の仕組みを理解し、幅広い基礎力を身に着ける。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	医科テキスト2～4(算定とレセプト上・下、トレーニングブック)、資料ブック、問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	17	入院料	入院料の算定方法を学ぶ
	18	入院料	入院料の算定方法を学ぶ
	19	入院料	入院料の算定方法を学ぶ
	20	入院レセプト作成	入院レセプト作成練習
	21	入院レセプト作成	入院レセプト作成練習
	22	入院レセプト作成	入院レセプト作成練習
	23	点検	レセプト点検方法を学ぶ
	24	点検	レセプト点検方法を学ぶ
	25	点検	レセプト点検方法を学ぶ
	26	医科医療事務管理士技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	27	医科医療事務管理士技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	28	医科医療事務管理士技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	29	医科医療事務管理士技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	30	医科医療事務管理士技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	31	医科医療事務管理士技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	32	まとめ	まとめ/期末試験
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	レセプト実習2	指導担当者名	篠塚 琴恵
実務経験	首都圏の医療機関にて臨床検査技師として業務に11年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 1年
授業方法	講義: ○	演習: ー	実習: ◎ 実験: ー
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	医療事務技能認定試験(11月受験予定)を目標に学習。 ※その他奇数月に検定実施。 検定試験合格に向けて、医療保険制度・診療報酬算定の仕組みを理解し、幅広い基礎力を身に着ける。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	医科テキスト2～4(算定とレセプト上・下、トレーニングブック)、資料ブック、問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	17	入院料	入院料の算定方法を学ぶ
	18	入院料	入院料の算定方法を学ぶ
	19	入院料	入院料の算定方法を学ぶ
	20	入院レセプト作成	入院レセプト作成練習
	21	入院レセプト作成	入院レセプト作成練習
	22	入院レセプト作成	入院レセプト作成練習
	23	点検	レセプト点検方法を学ぶ
	24	点検	レセプト点検方法を学ぶ
	25	点検	レセプト点検方法を学ぶ
	26	医科医療事務管理士技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	27	医科医療事務管理士技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	28	医科医療事務管理士技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	29	医科医療事務管理士技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	30	医科医療事務管理士技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	31	医科医療事務管理士技能認定試験 過去問題	過去問題演習、解答・解説
	32	まとめ	まとめ/期末試験
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	管理士対策	指導担当者名	篠塚 琴恵
実務経験	首都圏の医療機関にて臨床検査技師として業務に11年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 1年
授業方法	講義: ー	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 16 時間
学習到達目標	医療事務技能認定試験(11月受験予定)を目標に学習。 ※その他奇数月に検定実施。 検定試験合格に向けて、医療保険制度・診療報酬算定の仕組みを理解し、幅広い基礎力を身に着ける。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	医科テキスト2～4(算定とレセプト上・下、トレーニングブック)、資料ブック、問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25	医科医療事務管理士技能認定試験 問題演習	通常の試験時間に合わせて問題演習。答え合わせの後、解説。
	26	医科医療事務管理士技能認定試験 問題演習	通常の試験時間に合わせて問題演習。答え合わせの後、解説。
	27	医科医療事務管理士技能認定試験 問題演習	通常の試験時間に合わせて問題演習。答え合わせの後、解説。
	28	医科医療事務管理士技能認定試験 問題演習	通常の試験時間に合わせて問題演習。答え合わせの後、解説。
	29		
	30		
	31		
	32		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	基礎生理学	指導担当者名	高田 明日香
実務経験		実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ー 実験: ー
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の仕組みについて理解する ・基本的な医学用語を身につける ・一般的な疾患の概要について学び理解する 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	のほほん解剖生理学		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	細胞	細胞のしくみ、組織
	18	皮膚と膜	皮膚、体内の膜、体温、
	19	血液循環	血液、心臓、血管、胎児循環、血圧、リンパ
	20	血液循環	血液、心臓、血管、胎児循環、血圧、リンパ
	21	神経	神経、中枢神経、末梢神経・自律神経、体のリズム
	22	神経	神経、中枢神経、末梢神経・自律神経、体のリズム
	23	感覚器	視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚、意識レベル
	24	内分泌	ホルモンの働き
	25	骨格と筋	骨格、頭蓋骨と背骨、腕と脚の骨、関節と働き、骨格筋
	26	呼吸器、消化器	気道、呼吸、呼吸の調節摂食、口腔、食道、胃、腸、肝臓、膵臓、栄養の吸収
	27	泌尿器／生殖器、免疫	腎臓、膀胱／男性器、女性器、受精、出産免疫機能
	28	総復習	復習問題
	29	総復習	復習問題
	30	総復習	復習問題
31	総復習	復習問題	
32	まとめ	まとめ／期末試験	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	文書作成実習		指導担当者名	古川 美恵子	
実務経験	OA機器会社にインストラクターとして17年間勤務、後ウィンドウズのアプリケーション指導に従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 1年	
授業方法	講義: ー	演習: ー	実習: ◎	実験: ー	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	4 時間
学習到達目標	ビジネス文書の作成・編集は元より、図形や写真を効果的に使った文書の作成や、業務の効率アップができるテクニックを身に付ける。 基礎知識を確認しながら、学習計画を立てることにより、出題範囲の機能を理解し、操作方法をマスターする。 Word文書処理技能認定試験3級を目標に学習。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	Wordクイックマスター基本編、Word文書処理技能認定試験3級問題集				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	Chapter1、2	Wordの基本操作		
	2	Chapter3	文書の編集		
	3	Chapter4	文書の印刷		
	4	Chapter5	文書の作成		
	5	Chapter6	表を使った文書の作成		
	6	Chapter7	図形や画像を使った文書の作成		
	7	練習問題	練習問題1～3		
	8	模擬問題	模擬問題1～2		
	9	模擬問題	模擬問題3～4		
	10	模擬問題	模擬問題5～6		
	11	模擬試験	模擬試験		
	12	模擬試験	模擬試験		
	13	模擬試験	模擬試験		
	14	模擬試験	模擬試験		
	15	模擬試験	模擬試験		
	16	まとめ	まとめ/期末試験		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプランⅡ	指導担当者名	高田 明日香
実務経験		実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 2年
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ○ 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	グループワークを通し、コミュニケーション力やプレゼン力を高める		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	配布プリント(プレゼンテーション技法から抜粋)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	ワークショップで学ぶためのルール	ワークショップとは・ルール・権利・基本姿勢・活動
	2	コミュニケーションの基礎知識	コミュニケーションの基本 コミュにレーションの良好な状態とは
	3	コミュニケーションの基礎知識	集団の意思決定 価値観を伝える、受容する
	4	意見をだすための基礎技術	意見とは 意見の内容
	5	意見をだすための基礎技術	意見を出すときの留意点 意見形成のために
	6	プレゼンテーションツールの技術	プレゼンテーションツールとは プレゼンテーションツール作成の基礎知識
	7	プレゼンテーションツールの技術	ツール別プレゼンテーションの留意点 視覚に訴えるプレゼンテーション資料の作成技術
	8	ビジネスコミュニケーションの技術	ビジネスコミュニケーション ハウレンソウ
	9	ビジネスコミュニケーションの技術	報告技術の基本 連絡・相談
	10	論理的思考の基礎	論理的思考の大切さ 論理的思考とは
	11	論理的思考の基礎	主張を裏付けるデータ・情報 論理的表現とは
	12	論理的思考の基礎	論理構築のための情報収集技術 論理的思考・表現の訓練
	13	ワークショップ	ワークショップ①
	14	ワークショップ	ワークショップ②
	15	ワークショップ	ワークショップ③
	16	まとめ	まとめ/期末試験
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション論Ⅱ		指導担当者名	高田 明日香	
実務経験				実務経験:	
開講時期	後期		対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 2年	
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ○	実験: ー	
単位数	2 単位	総時間	30 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	グループワークを通して、コミュニケーション力の向上を目標とする				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	配布プリント(コミュニケーション技法より)				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	グループワーク	グループワーク①		
	18	振り返り	グループワーク①振り返り		
	19	グループワーク	グループワーク②		
	20	振り返り	グループワーク②振り返り		
	21	グループワーク	グループワーク③		
	22	振り返り	グループワーク③振り返り		
	23	グループワーク	グループワーク④		
	24	振り返り	グループワーク④振り返り		
	25	グループワーク	グループワーク⑤		
	26	振り返り	グループワーク⑤振り返り		
	27	グループワーク	グループワーク⑥		
	28	振り返り	グループワーク⑥振り返り		
	29	グループワーク	グループワーク⑦		
	30	振り返り	グループワーク⑦振り返り		
	31	コミュニケーション	コミュニケーションの重要性についてまとめる		
32	まとめ	まとめ/期末試験			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	秘書学	指導担当者名	関根 郁子
実務経験	市内病院にて11年間医療事務に従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 2年
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	医療秘書検定準1級受験を目標		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	建帛社テキスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	Chapter1	日本の医療
	2	Chapter1	医療界の現状
	3	Chapter1	今後の展望
	4	Chapter2	欧米の医療秘書
	5	Chapter2	日本の医療秘書
	6	Chapter2	医療秘書の専門性の確立
	7	Chapter3	医療秘書の役割
	8	Chapter3	医療秘書に求められる能力
	9	Chapter3	個人秘書の業務
	10	Chapter3	部門秘書の業務
	11	Chapter4	医療秘書の職務知識
	12	Chapter4	人間関係とコミュニケーション
	13	Chapter4	医療秘書の実務
	14	Chapter4	医療とICT
	15	振り返り	医療秘書検定要点振り返り
	16	まとめ	まとめ/期末試験
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	医療保険事務3	指導担当者名	高田 明日香
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	3 単位	総時間	90 時間 週時間数 6 時間
学習到達目標	医療秘書検定準1級受験を目標		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	配布プリント		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	医療秘書検定レセプト問題	医療秘書検定レセプト問題の解き方解説
	2	医療秘書検定学科問題練習	問題練習／解答・解説
	3	医療秘書検定レセプト問題練習	問題練習／解答・解説
	4	医療秘書検定レセプト問題練習	問題練習／解答・解説
	5	医療秘書検定レセプト問題練習	問題練習／解答・解説
	6	医療秘書検定レセプト問題	問題演習／解答・解説
	7	医療秘書検定学科問題	問題演習／解答・解説
	8	医療秘書検定レセプト問題	問題演習／解答・解説
	9	医療秘書検定学科問題	問題演習／解答・解説
	10	医療秘書検定レセプト問題	問題演習／解答・解説
	11	医療秘書検定学科問題	問題演習／解答・解説
	12	医療秘書検定レセプト問題	問題演習／解答・解説
	13	医療秘書検定学科問題	問題演習／解答・解説
	14	医療秘書検定レセプト問題	問題演習／解答・解説
	15	医療秘書検定学科問題	問題演習／解答・解説
	16	まとめ	まとめ／期末試験
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	医療用語	指導担当者名	関根 郁子
実務経験	市内病院にて11年間医療事務に従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	医療秘書検定準1級受験を目標		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	建帛社テキスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	Chapter1	各診療科名／その他用語
	18	Chapter2	人体の名称
	19	Chapter3	薬に関する用語
	20	Chapter4	診療科別用語／循環器科・呼吸器科・消化器科・泌尿器科
	21	Chapter4	診療科別用語／血液科・代謝内分泌科・アレルギー科・脳神経科
	22	Chapter4	診療科別用語／産婦人科・整形外科・感覚器科・感染症科
	23	Chapter5	検査に関する用語
	24	Chapter5	検査に関する用語
	25	医療秘書検定過去問題	医療秘書検定出題の用語問題
	26	医療秘書検定過去問題	医療秘書検定出題の用語問題
	27	医療秘書検定過去問題	医療秘書検定出題の用語問題
	28	医療秘書検定過去問題	医療秘書検定出題の用語問題
	29	医療秘書検定過去問題	医療秘書検定出題の用語問題
	30	医療秘書検定過去問題	医療秘書検定出題の用語問題
	31	医療秘書検定過去問題	医療秘書検定出題の用語問題
	32	まとめ	まとめ／期末試験
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	医療関連法規2		指導担当者名	篠塚 琴恵	
実務経験	首都圏の医療機関にて臨床検査技師として業務に11年間従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 2年	
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー	実験: ー	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	4 時間
学習到達目標	医療秘書検定準1級受験を目標				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	建帛社テキスト				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	Chapter1	日本の社会保障制度および医療保障制度概説		
	2	Chapter2	医療施設関係法規		
	3	Chapter3	医療従事者関係法規		
	4	Chapter4	健康保険法		
	5	Chapter5	被用者保険法		
	6	Chapter6	国民健康保険法		
	7	Chapter7	後期高齢者医療制度		
	8	Chapter8	公費負担医療制度		
	9	Chapter9	医療保障制度の周辺		
	10	Chapter10	医療関連法規をめぐる諸課題		
	11	医療秘書検定過去問題	医療秘書検定過去問題(法規分野)		
	12	医療秘書検定過去問題	医療秘書検定過去問題(法規分野)		
	13	医療秘書検定過去問題	医療秘書検定過去問題(法規分野)		
	14	医療秘書検定過去問題	医療秘書検定過去問題(法規分野)		
	15	医療秘書検定過去問題	医療秘書検定過去問題(法規分野)		
	16	まとめ	まとめ/期末試験		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	医学	指導担当者名	高田 明日香
実務経験		実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 2年
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	医療秘書検定準1級受験を目標		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	建帛社テキスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	1章 細胞・組織／2章 血液・リンパ・免疫	概要と主な疾患(医師事務範囲)、過去問題
	18	3章 骨格・筋系／4章 循環器系	概要と主な疾患(医師事務範囲)、過去問題
	19	5章 消化器系／6章 呼吸器系	概要と主な疾患(医師事務範囲)、過去問題
	20	7章 泌尿器系／8章 生殖器系	概要と主な疾患(医師事務範囲)、過去問題
	21	9章 内分泌系／10章 神経系	概要と主な疾患(医師事務範囲)、過去問題
	22	11章 感覚器系／12章 感染症／13章 精神疾患	概要と主な疾患(医師事務範囲)、過去問題
	23	薬の基礎知識	医薬品の基礎知識と薬理の基礎、過去問題
	24	医療秘書検定過去問題	医療秘書検定過去問題(医学分野)
	25	医療秘書検定過去問題	医療秘書検定過去問題(医学分野)
	26	医療秘書検定過去問題	医療秘書検定過去問題(医学分野)
	27	医療秘書検定過去問題	医療秘書検定過去問題(医学分野)
	28	医療秘書検定過去問題	医療秘書検定過去問題(医学分野)
	29	医療秘書検定過去問題	医療秘書検定過去問題(医学分野)
	30	医療秘書検定過去問題	医療秘書検定過去問題(医学分野)
	31	医療秘書検定過去問題	医療秘書検定過去問題(医学分野)
32	まとめ	まとめ／期末試験	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	医療秘書演習	指導担当者名	高田 明日香
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 2年
授業方法	講義: ー	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 8 時間
学習到達目標	医療秘書検定準1級取得を目標		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	建帛社テキスト・医療秘書検定過去問題		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	17	過去問題	問題演習／解答・解説
	18	過去問題	問題演習／解答・解説
	19	過去問題	問題演習／解答・解説
	20	過去問題	問題演習／解答・解説
	21	過去問題	問題演習／解答・解説
	22	過去問題	問題演習／解答・解説
	23	過去問題	問題演習／解答・解説
	24	過去問題	問題演習／解答・解説
	25	過去問題	問題演習／解答・解説
	26	過去問題	問題演習／解答・解説
	27	過去問題	問題演習／解答・解説
	28	過去問題	問題演習／解答・解説
	29	過去問題	問題演習／解答・解説
	30	過去問題	問題演習／解答・解説
	31	過去問題	問題演習／解答・解説
32	まとめ	まとめ／期末試験	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	表計算実習		指導担当者名	古川 美恵子	
実務経験	A機器会社にインストラクターとして17年間勤務、後ウィンドウズのアプリケーション指導に従事			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 2年	
授業方法	講義: ー	演習: ー	実習: ◎	実験: ー	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	4 時間
学習到達目標	<p>さまざまな関数や、グラフ作成を身に付ける。 基礎知識を確認しながら、学習計画を立てることにより、出題範囲の機能を理解し、操作方法をマスターする。 Excel表計算処理技能認定試験3級の合格を目標とする。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	Excelクイックマスター基本編、Excel表計算処理技能認定試験3級問題集				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	Chapter1・Chapter2	Excelの基本(練習問題1～3)・データの編集(練習問題1～3)		
	18	Chapter3, Chapter4	表の編集(練習問題1～3)・ブックの印刷(練習問題1～3)		
	19	Chapter5	グラフと図形の作成(練習問題1～3)		
	20	Chapter6	ブックの利用と管理(練習問題1～3)		
	21	Chapter7	関数①		
	22	Chapter7	関数②		
	23	Chapter8	データベース機能(練習問題1～3)		
	24	総合学習問題	総合学習問題		
	25	練習問題	練習問題1・2・3		
	26	模擬問題	模擬問題4・5・6		
	27	模擬問題	練習問題1・2・3		
	28	模擬試験	模擬問題4・5・6		
	29	模擬問題	模擬問題		
	30	模擬試験	模擬試験		
	31	模擬試験	模擬試験		
	32	まとめ	まとめ/期末試験		
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>					

授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプランⅢ	指導担当者名	高田 明日香
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 3年
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ○ 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	翌年の就職活動に備え、履歴書の書き方や自分を知り、面接でプレゼンできる力を高めることを目標とする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	就活BOOK		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	目標設定	3年次の目標設定
	2	就職するにあたって	専門学校での就職活動ルールについて、就活スケジュール作成
	3	就活BOOK	必要書類等について詳細説明
	4	就活BOOK	必要書類等について詳細説明
	5	就活BOOK	必要書類等について詳細説明
	6	就活BOOK	自己PRの作成
	7	就活BOOK	自己PRの作成
	8	就活BOOK	履歴書下書き
	9	就活BOOK	履歴書下書き
	10	就活BOOK	添え状・お礼状の書き方、封筒作成
	11	就活BOOK	添え状・お礼状の書き方、封筒作成
	12	就活BOOK	就職関連書類ストック作成
	13	就活BOOK	就職関連書類ストック作成
	14	就活BOOK	就職関連書類ストック作成
	15	就活BOOK	就職関連書類ストック作成
	16	まとめ	まとめ/期末試験
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション論Ⅲ	指導担当者名	高田 明日香
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 3年
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ○ 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	次年度の就職活動に合わせ、履歴書の作成や面接練習を行い、準備する。また、社会に出る心構えを持たせることを目標とする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	就活BOOK		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	コミュニケーションの基礎知識	コミュニケーションの基礎知識
	18	自己分析	自己分析
	19	自己分析	自己分析
	20	企業分析	自分が希望する企業の研究分析
	21	企業分析	自分が希望する企業の研究分析
	22	企業分析	調べたものについて共有
	23	面接対策	面接に向けての心構えと質問に対するまとめ
	24	面接対策	面接に向けての心構えと質問に対するまとめ
	25	面接個別対策	面接対策
	26	面接個別対策	面接対策
	27	面接個別対策	面接振り返り(1回目)
	28	面接個別対策	面接対策
	29	面接個別対策	面接対策
	30	面接個別対策	面接振り返り(2回目)
31	面接個別対策	面接対策	
32	まとめ	まとめ/期末試験	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	医事コンピュータ実習	指導担当者名	高田 明日香
実務経験		実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 3年
授業方法	講義: ー	演習: ー	実習: ◎ 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	カルテ内容を医事コンピュータに入力し、会計・明細書が作成できるようにする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	カルテ例題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	医事コンピュータ操作方法について(外来)	医事コンピュータ操作方法について(外来)
	18	カルテ例題集(外来)	カルテ例題集を使用し、随時説明を加えながら演習
	19	カルテ例題集(外来)	カルテ例題集を使用し、随時説明を加えながら演習
	20	カルテ例題集(外来)	カルテ例題集を使用し、随時説明を加えながら演習
	21	カルテ例題集(外来)	カルテ例題集を使用し、随時説明を加えながら演習
	22	カルテ例題集(外来)	カルテ例題集を使用し、随時説明を加えながら演習
	23	医事コンピュータ操作方法について(入院)	医事コンピュータ操作方法について(入院)
	24	カルテ例題集(入院)	カルテ例題集を使用し、随時説明を加えながら演習
	25	カルテ例題集(入院)	カルテ例題集を使用し、随時説明を加えながら演習
	26	カルテ例題集(入院)	カルテ例題集を使用し、随時説明を加えながら演習
	27	カルテ例題集(入院)	カルテ例題集を使用し、随時説明を加えながら演習
	28	カルテ例題集(入院)	カルテ例題集を使用し、随時説明を加えながら演習
	29	カルテ例題集(入院)	カルテ例題集を使用し、随時説明を加えながら演習
	30	カルテ例題集(入院)	カルテ例題集を使用し、随時説明を加えながら演習
	31	カルテ例題集(入院)	カルテ例題集を使用し、随時説明を加えながら演習
32	まとめ	まとめ/期末試験	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	コンピュータ概論A	指導担当者名	高田 明日香
実務経験		実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 3年
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ○ 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	<p>・システム開発のプロセスやテスト手法、ソフトウェア開発のプロセスや開発のプロセスや開発手法などについて開発手法、プロジェクトマネジメントのプロセスや手法、情報システムの運用を管理するITサービスマネジメントやサービスサポートの基本的な役割や構成、システム環境整備の考え方、システム監査の基本的な知識について理解する。</p> <p>・ITパスポート試験合格を目指す。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集、ITパスポート出るとこマスター		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	開発技術	システム開発技術 過去問題と解答解説
	2	開発技術	システム開発技術 過去問題と解答解説
	3	開発技術	システム開発技術 過去問題と解答解説
	4	開発技術	ソフトウェア開発管理技術 過去問題と解答解説
	5	開発技術	ソフトウェア開発管理技術 過去問題と解答解説
	6	開発技術	ソフトウェア開発管理技術 過去問題と解答解説
	7	開発技術	予想問題 過去問題と解答解説
	8	開発技術	予想問題 過去問題と解答解説
	9	開発技術	予想問題 過去問題と解答解説
	10	プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメント 過去問題と解答解説
	11	プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメント 過去問題と解答解説
	12	サービスマネジメント	サービスマネジメント 過去問題と解答解説
	13	サービスマネジメント	サービスマネジメント 過去問題と解答解説
	14	サービスマネジメント	システム監査過去問題と解答解説
	15	サービスマネジメント	システム監査過去問題と解答解説
	16	まとめ	まとめ/期末試験
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	コンピュータ概論B	指導担当者名	高田 明日香
実務経験		実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 3年
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ○ 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	コンピュータやIT関連の基礎技術や基礎理論等の知識を学習し、ITパスポート試験合格を目指す。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集、ITパスポート出るとこマスター		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	基礎理論	離散数学、応用数学
	2	基礎理論	情報に関する理論の学習
	3	アルゴリズムとプログラミングコンピュータ構成要素	データ構造とアルゴリズムに関する学習 プロセッサ、記憶装置、入出力装置に関する学習
	4	システム構成要素ソフトウェアハードウェア	システムの構成、システムの評価指標に関する学習 ソフトウェア、ハードウェアに関する学習
	5	システム構成要素ソフトウェアハードウェア	システムの構成、システムの評価指標に関する学習 ソフトウェア、ハードウェアに関する学習
	6	システム構成要素ソフトウェアハードウェア	システムの構成、システムの評価指標に関する学習 ソフトウェア、ハードウェアに関する学習
	7	ヒューマンインターフェース マルチメディア・データベース	ヒューマンインターフェースに関する学習 マルチメディア技術に関する学習とデータベース関連知識に関する学習
	8	ヒューマンインターフェース マルチメディア・データベース	ヒューマンインターフェースに関する学習 マルチメディア技術に関する学習とデータベース関連知識に関する学習
	9	ヒューマンインターフェース マルチメディア・データベース	ヒューマンインターフェースに関する学習 マルチメディア技術に関する学習とデータベース関連知識に関する学習
	10	ネットワークセキュリティ	ネットワーク関連知識／セキュリティ関連知識／プリント演習
	11	ネットワークセキュリティ	ネットワーク関連知識／セキュリティ関連知識／プリント演習
	12	ネットワークセキュリティ	ネットワーク関連知識／セキュリティ関連知識／プリント演習
	13	表計算ソフト	表計算ソフト関連知識学習
	14	表計算ソフト	表計算ソフト関連知識学習
	15	表計算ソフト	表計算ソフト関連知識学習
	16	まとめ	まとめ／期末試験
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	コンピュータ概論C	指導担当者名	高田 明日香
実務経験		実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 3年
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ○ 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器及びシステムの活用や問題の把握及び解決を理解する。 ・ITパスポート試験合格を目指す。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集、ITパスポート出るとこマスター		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	企業活動	経営・組織／OR・IE／会計・財務／知的財産権
	2	法務	セキュリティ関連法規／労働関連法規／取引関連法規
	3	法務	その他の法律／ガイドライン
	4	経営戦略	経営戦略手法／マーケティング
	5	経営戦略	経営戦略手法／マーケティング
	6	経営戦略	経営戦略手法／マーケティング
	7	経営戦略	ビジネス戦略／技術戦略
	8	経営戦略	ビジネス戦略／技術戦略
	9	経営戦略	ビジネス戦略／技術戦略
	10	システム戦略	情報システム戦略／システム化計画
	11	システム戦略	情報システム戦略／システム化計画
	12	システム戦略	情報システム戦略／システム化計画
	13	システム戦略	システム化計画
	14	システム戦略	システム化計画
	15	システム戦略	システム化計画
	16	まとめ	まとめ／期末試験
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	ITパスポート対策A	指導担当者名	高田 明日香
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 3年
授業方法	講義: ー	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	ITパスポート試験合格を目指す。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	就活BOOK		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	18	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	19	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	20	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	21	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	22	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	23	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	24	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	25	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	26	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	27	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	28	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	29	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	30	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
31	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)	
32	まとめ	まとめ/期末試験	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	ITパスポート対策B	指導担当者名	高田 明日香
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 3年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	ITパスポート試験合格を目指す。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	就活BOOK		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	18	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	19	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	20	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	21	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	22	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	23	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	24	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	25	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	26	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	27	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	28	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	29	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	30	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	31	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
32	まとめ	まとめ/期末試験	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	ITパスポート対策C	指導担当者名	高田 明日香
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 3年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	ITパスポート試験合格を目指す。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	就活BOOK		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	18	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	19	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	20	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	21	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	22	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	23	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	24	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	25	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	26	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	27	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	28	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	29	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	30	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
	31	受験対策	過去問演習(ペーパー及び試験対策ソフト使用)
32	まとめ	まとめ/期末試験	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	プロジェクトデザイン		指導担当者名	関根 郁子	
実務経験	市内病院にて11年間医療事務に従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 3年	
授業方法	講義: ー	演習: ー	実習: ◎	実験: ー	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	4 時間
学習到達目標	プロジェクトデザインの授業を通して、様々な課題についてZ世代(学生)目線で考え、問題解決力やコミュニケーション力を養う。 協調性を大切にしながら、グループワークをと緒強いて発言力の向上にも繋げる。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	プロジェクトデザインの授業内容について		
	2	前期テーマ	JO-BI健康フェスとは(昨年の事例)		
	3	JO-BI健康フェスについて	全国の健康フェスを調べる(情報収集)		
	4	JO-BI健康フェスについて	健康フェスグループ分け		
	5	JO-BI健康フェスについて	各グループのブース企画案作成		
	6	JO-BI健康フェスについて	各グループのブース企画案作成		
	7	JO-BI健康フェスについて	各グループのブース企画案発表		
	8	JO-BI健康フェスについて	各グループのブース制作		
	9	JO-BI健康フェスについて	各グループのブース制作		
	10	JO-BI健康フェスについて	各グループのブース制作		
	11	JO-BI健康フェスについて	各グループのブース制作		
	12	JO-BI健康フェスについて	各グループのブース制作		
	13	JO-BI健康フェスについて	各グループのブースリハーサル		
	14	JO-BI健康フェスについて	ブース内容のブラッシュアップ		
	15	JO-BI健康フェスについて	健康フェス最終確認		
	16	まとめ	まとめ/期末試験		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	医療情報概論	指導担当者名	高田 明日香
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 3年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	医事コンピュータ技能検定試験3級に向け、学習を進める。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	建帛社テキスト、3級問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	Chapter1	コンピュータと情報表現
	18	Chapter1	コンピュータと情報表現
	19	Chapter2	コンピュータの仕組みと動作
	20	Chapter2	コンピュータの仕組みと動作
	21	Chapter3	ソフトウェア
	22	Chapter3	ソフトウェア
	23	過去問題	医事コンピュータ検定3級過去問題(概論分野)演習/解答・解説
	24	過去問題	医事コンピュータ検定3級過去問題(概論分野)演習/解答・解説
	25	過去問題	医事コンピュータ検定3級過去問題(概論分野)演習/解答・解説
	26	過去問題	医事コンピュータ検定3級過去問題(概論分野)演習/解答・解説
	27	過去問題	医事コンピュータ検定3級過去問題(概論分野)演習/解答・解説
	28	過去問題	医事コンピュータ検定3級過去問題(概論分野)演習/解答・解説
	29	過去問題	医事コンピュータ検定3級過去問題(概論分野)演習/解答・解説
	30	過去問題	医事コンピュータ検定3級過去問題(概論分野)演習/解答・解説
	31	過去問題	医事コンピュータ検定3級過去問題(概論分野)演習/解答・解説
32	まとめ	まとめ/期末試験	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプランⅣ		指導担当者名	高田 明日香	
実務経験					実務経験:
開講時期	前期		対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 4年	
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ○	実験: ー	
単位数	2 単位	総時間	30 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	就職活動をスムーズに行えるよう準備を進める				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	配布プリント(プレゼンテーション技法から抜粋)				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	自己PR	3年次に作成した自己PRを再校正		
	2	企業研究	医療機関について調べる		
	3	企業研究	希望する企業について調べる		
	4	企業研究	情報交換		
	5	履歴書作成	履歴書作成		
	6	添え状作成	添え状の書き方・作成		
	7	封筒、郵便	封筒の書き方・郵便知識		
	8	メール	就職活動に必要なメールの知識		
	9	面接	過去面接質問に沿ってまとめる		
	10	面接	過去面接質問に沿ってまとめる		
	11	面接	面接練習(個人) ※内定者は面接官		
	12	面接	面接練習(集団) ※内定者は面接官		
	13	社会人マナー	就職後を見据えてマナーについて考える		
	14	社会人マナー	就職後を見据えてマナーについて考える		
	15	社会人マナー	就職後を見据えてマナーについて考える		
	16	まとめ	まとめ/期末試験		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション論Ⅳ	指導担当者名	高田 明日香
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 4年
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ○ 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	グループワークを通して、コミュニケーション力の向上を目標とする		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	配布プリント(コミュニケーション技法より)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	17	グループワーク	グループワーク①
	18	振り返り	グループワーク①振り返り
	19	グループワーク	グループワーク②
	20	振り返り	グループワーク②振り返り
	21	グループワーク	グループワーク③
	22	振り返り	グループワーク③振り返り
	23	グループワーク	グループワーク④
	24	振り返り	グループワーク④振り返り
	25	グループワーク	グループワーク⑤
	26	振り返り	グループワーク⑤振り返り
	27	グループワーク	グループワーク⑥
	28	振り返り	グループワーク⑥振り返り
	29	グループワーク	グループワーク⑦
	30	振り返り	グループワーク⑦振り返り
	31	コミュニケーション	コミュニケーションの重要性についてまとめる
32	まとめ	まとめ/期末試験	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	電子カルテ	指導担当者名	高田 明日香
実務経験		実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 4年
授業方法	講義: ー	演習: ー	実習: ◎ 実験: ー
単位数	3 単位	総時間	90 時間 週時間数 6 時間
学習到達目標	11月に実施される電子カルテ検定に向け、学習を進める。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	電子カルテシステムの理解と演習、プリント問題、PC		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	電子カルテ実技試験の概要、基本的な操作	実技試験の概要説明、電子カルテシステムの基本的な機能システムの起動と終了、権限設定、システム全体の機能概要
	2	ソフトの操作方法	診療所・病院(外来)の操作
	3	ソフトの操作方法	診療所・病院(外来)の操作
	4	ソフトの操作方法	診療所・病院(外来)の操作
	5	問題演習	過去問題演習
	6	問題演習	過去問題演習
	7	問題演習	時間を計測して過去問題演習
	8	問題演習	時間を計測して過去問題演習
	9	問題演習	時間を計測して過去問題演習
	10	問題演習	時間を計測して過去問題演習
	11	検定試験振り返り	検定試験振り返り
	12	総復習	総復習
	13	期末試験	期末試験
	14	総復習	過去問を使用して総復習(実務に近いもの)
	15	総復習	過去問を使用して総復習(実務に近いもの)
	16	まとめ	まとめ/期末試験
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	情報処理対策	指導担当者名	高田 明日香
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 4年
授業方法	講義: ○	演習 ◎	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 8 時間
学習到達目標	J検3級合格を目指す。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	J検3級問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	J検3級問題演習	問題演習、要点解説
	18	J検3級問題演習	問題演習、要点解説
	19	J検3級問題演習	問題演習、要点解説
	20	J検3級問題演習	問題演習、要点解説
	21	J検3級問題演習	問題演習、要点解説
	22	J検3級問題演習	問題演習、要点解説
	23	J検3級問題演習	問題演習、要点解説
	24	J検3級問題演習	問題演習、要点解説
	25	J検3級問題演習	問題演習、要点解説
	26	J検3級問題演習	問題演習、要点解説
	27	J検3級問題演習	問題演習、要点解説
	28	J検3級問題演習	問題演習、要点解説
	29	J検3級問題演習	問題演習、要点解説
	30	J検3級問題演習	問題演習、要点解説
	31	J検3級問題演習	問題演習、要点解説
32	まとめ	まとめ/期末試験	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	PC演習	指導担当者名	高田 明日香
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 4年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	3 単位	総時間	90 時間 週時間数 6 時間
学習到達目標	エクセル、ワードの2級合格を目指す。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	エクセル・ワードクイックマスター(応用編)、問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	17	エクセル2級・ワード2級説明	クイックマスター
	18	エクセル2級・ワード2級説明	クイックマスター
	19	エクセル2級・ワード2級説明	クイックマスター
	20	エクセル2級・ワード2級説明	クイックマスター
	21	エクセル2級・ワード2級説明	クイックマスター
	22	エクセル2級・ワード2級説明	クイックマスター
	23	エクセル2級・ワード2級説明	クイックマスター
	24	エクセル2級・ワード2級問題演習	問題演習
	25	エクセル2級・ワード2級問題演習	問題演習
	26	エクセル2級・ワード2級問題演習	問題演習
	27	エクセル2級・ワード2級問題演習	問題演習
	28	エクセル2級・ワード2級問題演習	問題演習
	29	エクセル2級・ワード2級問題演習	問題演習
	30	エクセル2級・ワード2級問題演習	問題演習
	31	エクセル2級・ワード2級問題演習	問題演習
32	まとめ	まとめ/期末試験	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	プレゼンテーション実習		指導担当者名	高田 明日香	
実務経験					実務経験:
開講時期	前期		対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 4年	
授業方法	講義: ー	演習: ー	実習: ◎	実験: ー	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	4 時間
学習到達目標	マイクロソフトPowerPoint操作方法及び、プレゼンテーション技法を学び、ビジネスユースにあったプレゼンテーションを自ら実践出来るようにするため、スライド作成能力とプレゼン実践力を身に付ける。またPowerPoint技能認定試験初級の取得を目指す。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	PowerPointクイックマスター基本編、PowerPoint プレゼンテーション技能認定試験問題集				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	プレゼンテーション概要	プレゼンテーションの必要性		
	2	パワーポイントの基礎知識	パワーポイントの画面構成・操作		
	3	プレゼンテーション作成	スライドの作成方法 保存方法 他		
	4	プレゼンテーションの構成とデザイン 文字の編集	スライドの構成 文字表現		
	5	オブジェクトの作成	図形・表・クリップアートの利用と作成		
	6	自己紹介 スライド作成実習	【自分オリジナル】自己紹介スライド作成		
	7	表示効果とハイパーリンク	画面切り替え効果とアニメーション		
	8	スライドショーの実行	スライドショーの実行操作・自動実行		
	9	自分の好きな場所 までの地図をスライドで作成	【自分オリジナル】 地図スライド作成		
	10	テーマカスタマイズ スマートアート	テーマのカスタマイズ		
	11	グラフの追加・図の加工 プレゼン動作設定	スライドへ図の追加 セクション設定等		
	12	グラフの追加・図の加工 プレゼン動作設定	スライドへ図の追加 セクション設定等		
	13	期末テスト・検定試験に向けて	検定試験 過去問題		
	14	期末テスト・検定試験に向けて	検定試験 過去問題		
	15	期末テスト・検定試験に向けて	検定試験 過去問題		
	16	まとめ	まとめ/期末試験		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネススキル実習		指導担当者名	高田 明日香	
実務経験				実務経験:	
開講時期	前期		対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 4年	
授業方法	講義: ー	演習: ー	実習: ◎	実験: ー	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	4 時間
学習到達目標	・日本電卓技能検定協会主催の検定が受験できるレベルを目標に学習する。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	・日本電卓技能検定協会過去問題集・電卓				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	電卓の基本	電卓の使用方法		
	2	見取算	日本電卓技能検定 見取算の計算方法		
	3	乗算	日本電卓技能検定 乗算の計算方法		
	4	除算	日本電卓技能検定 除算の計算方法		
	5	復習	見取算・乗算・除算の復習		
	6	計測(見取算・乗算・除算)	日本電卓技能検定問題 第1回／各20分ずつ計測		
	7	計測(見取算・乗算・除算)	日本電卓技能検定問題 第2回／各20分ずつ計測		
	8	計測(見取算・乗算・除算)	日本電卓技能検定問題 第3回／各10分ずつ計測		
	9	計測(見取算・乗算・除算)	日本電卓技能検定問題 第4回／各10分ずつ計測		
	10	伝票	日本電卓技能検定 伝票算の計算方法		
	11	計測(見取算・乗算・除算・伝票)	日本電卓技能検定問題 第5回／各10分ずつ計測		
	12	計測(見取算・乗算・除算・伝票)	日本電卓技能検定問題 第6回／各10分ずつ計測		
	13	計測(見取算・乗算・除算・伝票)	日本電卓技能検定問題 第7回／各10分ずつ計測		
	14	計測(見取算・乗算・除算・伝票)	日本電卓技能検定問題 第8回／各10分ずつ計測		
	15	計測(見取算・乗算・除算・伝票)	日本電卓技能検定問題 第9回／各10分ずつ計測		
	16	まとめ	まとめ／期末試験		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	卒業研究		指導担当者名	高田 明日香	
実務経験				実務経験:	
開講時期	後期		対象学科学年	医療ビジネス・情報大学科 4年	
授業方法	講義: ー	演習: ◎	実習: ー	実験: ー	
単位数	4 単位	総時間	120 時間	週時間数	8 時間
学習到達目標	卒業に向け、4年間学んだ内容をパワーポイントでまとめ最終的に発表、卒業年次生で共有することを目標とする。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	研究・発表内容検討、決定	卒業研究の進め方と目的等を理解する 発表内容を検討、決定		
	18	研究・発表内容検討、決定	卒業研究の進め方と目的等を理解する 発表内容を検討、決定		
	19	研究・発表内容分析	研究内容について情報の収集 グループワークにて研究テーマの分析、考察		
	20	研究・発表内容分析	研究内容について情報の収集 グループワークにて研究テーマの分析、考察		
	21	作成	プレゼンテーション作成		
	22	作成	プレゼンテーション作成		
	23	作成	プレゼンテーション作成		
	24	作成	プレゼンテーション作成		
	25	発表練習	作成したプレゼンの模擬発表		
	26	発表練習	作成したプレゼンの模擬発表		
	27	修正	模擬発表を終え、修正		
	28	修正	模擬発表を終え、修正		
	29	成果発表	各自スライドを完成させて発表		
	30	成果発表	各自スライドを完成させて発表		
	31	振り返り	発表の振り返り		
	32	まとめ	まとめ/期末試験		
履修上の留意点					
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					